

広報ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集秘書課 電話(018876)代 2100番
 印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 一部 5円
 郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,954 世帯
 人口 17,048 人
 内訳 { 男女 8,227 人
 8,821 人

住民登録調 (52年8月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

新観光三〇景を記念して
 去る九月十二日、そこはかとなく秋の気配をただよわせる森山の頂上で、一組の夫婦が誕生した。このカップルは、飯田川町の千種光暉君と五城目町杉沢の石川一重さんである。これは、かねて町民センター食堂で、森山公園の新規秋田三〇景当選記念に企画したもので募集を開始した時点から、すでに町民の間で話題を呼んでいた。関係者は、かねて山頂上に到着する頃には、青空がのぞき、結婚式には太陽が顔をみせ、それでなくとも熱い二人にとっては厳しい残暑となつた。

青空と太陽と緑に包まれて
 結びの場所は、山頂にある「希望の塔」や「大山祇尊(おおやまじみのみこと)」の祀られている前に、ミニ式場をしつらえた。進行はこの道のベランダ春風さんで、音吐朗めたる氏の謡曲は式の厳しさを生き、眼下に広がる湖

森山の頂上で結婚式

~蝶も舞い出て祝う~

東平野、男鹿三山、緑の山なみは、若い二人の洋々たる前途を約束するかのように、静かにこれを見守つていた。秋の陽ざしに浮かれた三羽のキアゲハ蝶は、どこからともなく飛んで来て、新郎新婦の頭上をヒラヒラ舞い続け、新婦の角かくしに止てみせるなど愛敬をふりまき、ともすれば固くなりがちな両家の人々に心のくつろぎを与えた。野外ならではの光景であった。初めての試であったこの結婚式も、青空と太陽と緑の大それだに包まれて成功の裡に終つた。

昭和三年、五城目に居を移してから子宝に恵まれすぎ、七人の親となつた今はどうだろう、「一食万錢」ぜいりんなどもたらす。その米が余るという昔の私には合点のいかぬことばかりで、太平洋戦争が始まり、ひと握りの米の確保に明け暮れる毎日であった。

太平洋戦争が始まり、ひと握りの米の中をよぎる疑問である。痛く苦しい思い出の日の積み重ねが、もう五十年の歳月の中に今更ながらおどろいている。この間、夫婦共に健康に恵まれることもあつたのは、全く町の人々のおかげであり深く感謝している。

今後は、健康という宝を大事にしながら、今まで受けた社会の恩恵に、夫婦で力を合せながら少しでも返していくのが念願である。

新婦の指に輝くリング、秋の陽がキラッキラッと反射する時故石川茂右エ門氏の遺影は、その光を受けマブしそうでもあり、嬉しそうでもあり、物言わぬ姿でジット娘をみつめていた。さぞかし二人の前途を



永遠の愛を誓う千種夫妻

△広報サロン△
金婚式の祝福を受けて

仲町工藤源治



私は妻と一緒になつてから、指おこり数えて五十年目になるが老式典の席上、十八組の金婚者を代表して、参加者から盛大なお祝いをいただき感激にひたつた。省みるに、半世紀にわたる私たちの生活は、今では想像もおよばない誠にめまぐるしい事ばかりであった。そもそも二人のスタートは、一府八県の死者九万人におよんだ、関東大震災の復興さなかであった。当時の東京は、震災の混乱に乘じ、亀戸事件、六千名を数える朝鮮人大虐殺事件、甘粕事件など次々と歴史に残るような弾圧事件が続々、東京で住むことに恐れおののいたものである。

昭和三年、五城目に居を移してから子宝に恵まれすぎ、七人の親となつたこの子どもたちが育ち盛りの時はまた太平洋戦争が始まり、ひと握りの米の確保に明け暮れる毎日であった。

今はどうだろう、「一食万錢」ぜいりんなどもたらす。

たくな食事、それに米が余るという昔

人の私には合点のいかぬことばかりで

これでいいのだろうか、と何時も頭の

中をよぎる疑問である。痛く苦しい

思い出の日の積み重ねが、もう五十年の

歳月のすぎが出来たのかと思うと、歳月の

早さに今更ながらおどろいている。

この間、夫婦共に健康に恵まれること

もあつたのは、全く町の人々のおかげ

であり深く感謝している。

これから、今まで受けた社会の恩恵に、夫婦で力を合せながら少しでも返していくのが念願である。

今後は、健康という宝を大事にしな

がら、今まで受けた社会の恩恵に、夫

婦で力を合せながら少しでも返して

いくのが念願である。

